

# 教育通信

25年度 第4号  
通巻1814号

発行所：  
高知県教職員組合  
〒780-0850  
高知市丸ノ内2-1-10  
TEL088-822-4135  
FAX088-823-2355

## 全教職員 配布 読んでね

県教組HPは

↓こちらから



## 未配置は深刻！県独自の改善策を

学校現場は、代替未配置で困っています。高知県教組では3年連続で県内の全35地教委を対象に、前年度の「一ヶ月以上未配置」になった数を調査しました（以下、地教委調査。口頭回答も含め28地

教委より回答）。その結果をまとめ、6月16日に記者会見（写真・テレビ高知のインターネット画面より）をして実態と提言を発表しました（調査結果は県教組HPで公開中）。

また、ある地教委は「一ヶ月以上未配置で年度末まで未配置だった数」として5件と回答。逆に考えれば年度途中で解消された件数は入っていません。そのため、実態とかけ離れた結果となっていると推測します。

事実、高知県教組の問い合わせ（毎年度末に、退職者の内訳など人事異動に関することを問い合わせています）に県教委が答えた24年度の未配置数は、110校131件で、過去10年間で最多になります。小学校では約2校に1校で、中学校では4校に1校以上で一ヶ月以上の未配置が発生している

計算になります。記者会見では、県教委回答の数値も公表して「深刻な実態がある」と強調しました。地教委調査と学校調査では、その未配置の対応についても聞きしました。「教頭が担任に」「特支の担任が（休み始めた）通常学級の担任に」「他校との兼務で授業を行った」など、現場での苦悩が書かれています。各自の多忙さに更に拍車を掛ける実態が浮き彫りになりました。

また、地教委調査では、25年度の4月冒頭の未配置についても質問。すべての地教委から未配置はないとの回答でした。しかし、加配が減らされた等の回答はありました。

加えて、目立つのが、支援員の多さです。支援員について、回答頂いた17地教委で、県費負担130名（放課後等学習支援39名等）、地教委負担250名（特別支援教育支援80名等）、合計380名が着任中です。

記者会見では、支援員の方たちがいないと今の学校は回らない現実になっていると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。

上記の調査の結果、上記の通り、必要十分な人員が必要な教育に、①地教委の財政力に任せるのではなく定数化して配置すべきである②そもそも「1クラス35人」や「特支学級8人」などの学級編制基準や、そのクラス数を基に計算される職員定数配置基準では人が足りないのだから、国の責任で、また国が出来ないのであれば県独自の基準で改善すべきであると、強調しました。



NEWSDIG.TBS.CO.JP  
高知県内教育現場 代替教員の「未配置」深刻 病休や育休の教員の代わりが不足 県教組によるアンケート調査結果 | 高知のニュース・天気 | KUTV NEWS | KUTV...

置の回答件数は22件。しかし、今年度は組合員を通じて学校にも同時に調査をしていた（以下、学校調査）のようですが、「未配置はない」と回答した地教委が管轄する学校から「未配置があった」との回答がありました。

また、ある地教委は「一ヶ月以上未配置で年度末まで未配置だった数」として5件と回答。逆に考えれば年度途中で解消された件数は入っていません。そのため、実態とかけ離れた結果となっていると推測します。

事実、高知県教組の問い合わせ（毎年度末に、退職者の内訳など人事異動に関することを問い合わせています）に県教委が答えた24年度の未配置数は、110校131件で、過去10年間で最多になります。小学校では約2校に1校で、中学校では4校に1校以上で一ヶ月以上の未配置が発生している

計算になります。記者会見では、県教委回答の数値も公表して「深刻な実態がある」と強調しました。地教委調査と学校調査では、その未配置の対応についても聞きしました。「教頭が担任に」「特支の担任が（休み始めた）通常学級の担任に」「他校との兼務で授業を行った」など、現場での苦悩が書かれています。各自の多忙さに更に拍車を掛ける実態が浮き彫りになりました。

また、地教委調査では、25年度の4月冒頭の未配置についても質問。すべての地教委から未配置はないとの回答でした。しかし、加配が減らされた等の回答はありました。

加えて、目立つのが、支援員の多さです。支援員について、回答頂いた17地教委で、県費負担130名（放課後等学習支援39名等）、地教委負担250名（特別支援教育支援80名等）、合計380名が着任中です。

記者会見では、支援員の方たちがいないと今の学校は回らない現実になっていると、強調しました。

**県教組女性部の「労働条件改善・母性保護などに関するアンケート」にぜひご協力を!**

下のQRコードからどうぞ。  
**8/20 (水) 締切です。**

【女性教職員へのアンケート】

【男性教職員へのアンケート】  
(配偶者が3年以内に妊娠・出産した方)

## お城下

上記の調査の結果は、発表後、さっそく6月16日(当日)には県教委に、また18日には(県庁広報広聴課を通じて)知事にも届けました▼昨年11月の記者会見後も同様にその資料を届けました▼しかし、その後の交渉などで改善を要求する私たちに對して、県教委は「国の制度だから、県独自では出来ない」との答弁でした▼県の独自判断で、県内の全教職員に占める割合で全国平均(0.48%)をはるかに上回る割合(全国断トツの2.55%。2位の秋田県は1.38%)の充て指導主事(実数で24年度170名)を配置しているのは「国の制度」なのかと言いたくなります▼24年度の一ヶ月以上の未配置数は131件。充て指導主事は170名。ついつい比べてみたくもなります▼県独自の改善実施を早急に。それが子どもたちのためでもあることを強調しながら、県教組は運動を続けます。(和)

# 活発な討論で運動方針を確立!

## 県教組第102回定期大会開催

6月28日(土)、高知県教組は第102回定期大会を開催しました。学校現場の状況を報告したり、現場教職員の願いに応える分会や専門部の取り組みを発言したり、合わせて28本の活発な討論が行われました。そして、24年度の運動の総括や25年度の運動方針・予算を決定しました。

以下、代議員の発言の中から、特徴的なものの要旨を紹介します。

**【幡多】**分会から組合に相談があつて、会って面談している。すると「まずは聞いて下さい」という発言を受けた。

言から始まる。そんな中で、パワハラへの対応問題や手当の戻入問題等の相談を受けた。解決がすぐ



に出来たわけではないが、対話の中で、相談者ががんばれる状態を作ることが出来た。現場の思いを聞くことが大事と思つて活動中。

**【高校】**総合共済の加入を広げている。(毎月600円の掛け金で、様々な給付があつて退職時には掛け金相当の全額が戻ってくるなど) マイナスになることが何一つないので、加入を勧められている。自分も「守られている・入つていて良かった」と思うから、声をかけることが出来ている。

**【安芸】**カリキュラムオーバーロードの状態になつている。土曜日分が平日に加わつたり、減らさずに増やすような指導要領の改訂が行われたりする中で、小4以上が毎日6時間の状態になつている。1日5時間授業ならば、自分たちにも余裕が生まれる。(指導要領改訂作業が始まる今)カリキュラムを減らす運動を。

**【高岡】**教科担任制について、(いくつかの学校からの報告で)教科担任をする専科教員が25年度になつて引上げになつ



ている実態が報告されている。そのため、専科の授業が減らされたり、なくなつたりで、ある学校では小6の担任が全教科教えている状態になつている。もっと人を配置してもらいたい。人の配置で言えば、プール指導でも、事故防止のため授業にあたる人を増やせと言われているが、その人がいない。学校現場にもっと人を増やしてほしい。

**【香美】**再任用で勤務している。特別支援学級の担任だが、体育主任やいろんな主任も回ってくる。専科授業も担当し、とても日々忙しい。手当も削られているのに納得できない。

**【安芸】**安芸市の学

校の給食は、24年度には、自校方式4校とそれ以外の学校に対応する給食センターがあつた。だから、自校方式の学校を担当する栄養教諭とセンターを担当する栄養教諭の2名が配置されていた。ところが、25年度、自校方式が2校に減る中で、自校方式の学校があるのにそれを担当する栄養教諭が引上げとなり、センター対応の1名のみになつた。とても対応できない。県教委は配置しないとの考えなので、安芸市が探しているが、まだ見つからない。自校方式があればやはりそこに人を配置すべき。

**【高知市】**水泳指導の監視などの人の確保も大変。校内の全員が空き時間のない状態になつている。オーバーフローも出ない汚れた水で泳いでいる実態。加えて、バディなどの確認に追われ、子どもたちは熱いプールサイドで待つことが多く、授業時間の半分

を過ぎてようやく水に入るような授業が続いている。30項目のチェックやその対応も学校任せであり、大変な状態である。

**【高校】**県立学校では、夏休みに自宅勤務できるテレワークが始まることになった。以前にあつた自宅研修との違いなど、注視したい。また、育休代替が未配置になつた時に、その休んでいる人の校務分掌を担った人への一時金加算(県庁では実施中)が出るようになった。(どう振り割るかは校長判断などの運用の問題点はあるが)これも実態を注視したい。

**【青年部】**平和へのとりくみを行っている。24年度は、夏にヒロシマでの原水禁世界大会へツアーで参加したり、韓国へ平和ツアーに行ったりした。今年は、夏休みにフクシマへ訪問するツアーを計画している。学習をし、楽しい活動をし、要求実現の運動をし、と頑張つて行きたい。



**【事務職員部】**2月に事務職員部で、県教委との話し合いを行った。修学旅行引率旅費の単価の引き上げなどの回答があつた。個人負担はなくなる見込み。また、4キロ未満の出張にも旅費が出るようになった。しかし、支給対象は増えているのに、旅費の予算総額は増えていない。予算が増えなければ、出すものも出せないなど、対応が出来ない。(教材費なども含めて教師が教育に必要なお金を自分で出す)「教師の自腹」の問題も、学習会も行ったが、これから継続して考えて行きたい。

# 子連、31の地教委と懇談

## 教育無償化・臨教不足・高校振興再編計画など多様なテーマで懇談

子どもと教育を守る高知県連絡会（略称・子連）では、市町村教育委員会を訪問して懇談するキャラバンを5月の連休明けからとりくみました。その結果、35地教委の内31地教委を訪問し、教育長などと、①教育無償化のとりくみについて、②教員不足の解消について、③県立高等学校振興再編計画についての3点などで、約1時間の懇談を行いました。

### ①教育無償化について

義務教育無償の観点から保護者の経済的負担軽減が必要なことでは大方の認識は一致しました。家庭の学習費についての文科省調査では、23年度に学校教育費として1年間に公立小学校では約8万1千円、公立中学校では約15万円かかっています。そうした中、数町村で副教材もほぼ全額公費負担でしたし、市販テスト代、ドリル代などを中心に年間数千円程度の補助をしている市町村も多くありました。また、確認できた全ての市町村でタブレットに導入しているドリル・学習支援ソフトについては公費負担でした。

### ②臨教不足について

臨時教員不足による代替未配置が24年度は多くの地教委であり「何人もの退職者に何十回も電話をかけて頼み込んだ」「退職教員も少なく、地元で探せと言われても困難」等の実態が出されました。中には「未配置で中学校教科担当がいなくなった場合は、県教委の指導主事から派遣してほしい」など

したときより4自治体増えています。補助を拡大したり、この間の食料値上がり分は公費で負担し給食費を値上げしてないところも多かったです。児童生徒数の多い自治体や財政の厳しい自治体は実施に踏み切れておらず、国の施策として無償化を急いでほしいとの声もきかれました。なお、「食育」の教材としての無償化を進めたと話される教育長もおられたことと重要なことだと思われました。

の意見もありました。25年度当初は、ほとんどの地教委で「基礎定数上の未配置はない」とのお話でした。一方で、多くの地教委で「加配が減らされた」「従来の加配はない」「加配の枠はあるが、人がいない」などの実態が出され、「加配を切られるのが現場にとって非常に辛い」との声もありました。また、年度途中の病休、産休代替未配置への懸念も強いものがありました。なお、若年層が休

### ③高校振興再編計画について

概ね次の三通りの反応に分かれました。一つ目は、今回の新しい振興再編計画を機に地域の高校の魅力化・存続のために新たなとりくみを開始しようというところ。二つ目は、これまでも相当に地域の高校への連携・支援にとりくんできており、さらにどのようなとりくみをすればよいのか困っているところ。三つ目は、地教委にとって直接の関係がないであろうところ。

地教委により差はありますが、「これまで地域も高校もかなり努力してきたが、入学生徒数の現状は非常に厳しい。この3年間を正念場ととらえている」との声もきかれました。そして、「計画が遅い」「今さら」「振興」の3年間（目標はかなり高い）でだめな「再編」だとの脅しに聞こえる。「県立高校なのでもっと県が責任を持ったとりにくみを」「予算ももっと付けてほしい」などの厳しい指摘等

も出されました。なお、時間の余裕のある所では、給特法改定・採用審査・小学校教科担任制・中学校部活動の地域移行などについても意見交換をしました。子連では、「ゆきとどいた教育をすすめるための請願署名」（12月県議会への請願予定）や秋に予定される県教育長との懇談内容に反映させ、要望実現に向けてとりくみをすすめていきます。署名等にご協力下さい。

（子連事務局 石川真人）

教職員のための自動車保険は

## 全教自動車保険

教職員と家族を守って35年

WEBでかんたん見積依頼

右のQRコードから見積り依頼を→



お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

高知県内の四国88カ所霊場巡り④

1	2	3	4	5	
6					
7			8		9
10				11	
12			13		
14					

【タテのカギ】

1. 寄せては返す、海と陸の境目
2. 昔は、遠足などの定番レクの一つ。小さなカードを隠して…。
3. 時間単位の一つ。月が12集まって。
4. 学期末だけど〇〇は禁物。落ち着いて。
5. 魚や貝を寄せ鍋

【メノのカギ】

1. 菜種を絞った油。交響曲第7番。
6. シューベルトのオモテの反対側
7. ラクダ科。アンデス地方に生息。
8. 地元を応援する
9. 読めるかな? 「哩」。距離の単位の一つ

式に煮込んだ、マールセイユ風の料理

11. 〇〇地消。くつつきワード
12. キロ、メガ、〇〇、テラ
13. 爪、英語では
14. 日本語で書いた本。

かぎを解いて二重枠に入る3文字で、高知県内にある四国88カ所霊場のお寺の名前(〇寺、解答には寺をつけてね)を作

【みなさんの声より】

〇いつも楽しく読ませていただきます。特に、クロスワードは、届いたその日に家族でやっております。「今日、届いたで！」と帰って一目散に伝えると、晩ご飯の後の楽しみとして、机の上に必ず置かれ、食べながらチ

かぐらさん (吾北中)  
ケロちゃんさん (東津野中)  
フクさん (春野東小)



ドを進呈。⑤は紙上で紹介させていたことがありますが。

【5月号の当選者】  
「延光(えんこう)寺」(宿毛市・第39番)でした。抽選の結果、次の3名の方が当選されました。おめでとうございませ

ラチラ見て、解答をすでに考え始めます。今月号は、答えやすい問題が多く、より楽しくできました。

〇異動することもなく同じ学校に勤務して、なぜ毎年少しづつ忙しくなるのでしょうか??なぜか、やるが増え、なぜか確認する事項が増え、なぜか会議が増えてきています。教員の働き方改革と逆行しています。なぜか、給料だけは、増えませんが、なぜそうなのですか。誰か、なぜそうなのですか。誰か、教えてください。

〇いつも楽しく拝見しています。60歳以上の教員や再任用された教員の待遇が、もう少し改善されたいものではないか?現場では、若手と同じか、それ以上の校務分掌を任されているにも関わらず、3割カットというの厳しすぎると思います。あと、頑張っている講師を続けている臨時教員の皆さんが採用されますよう祈っています!

〇水泳指導の人数確

保に苦勞しています。どの学校も同じではないでしょう。安全に水泳を行うために、人を呼ぶ予算をつけてほしいものです。

〇先日新聞で、高知県の小学校教諭志願者が4年で半減したという記事を見ました。閉庁期間の設定で夏休みは取りやすくなりましたが、日々の職務は働き方改革とは程遠く、残業の嵐。多岐に渡る業務で常に山積する仕事に追われ、帰りたくても帰れないのが実状です。管理職から早い退勤を促されるたび、「負担を減して!」と心の叫び。勤務時間内に終わらせるのは到底無理な仕事量と闘いながら退職の機をうかがっています。やりがいのある仕事だけに、これから目指す人達に胸を張って勧められる業務量であって欲しいと願うばかりです。

〇湿気と暑さでへばり気味の毎日です。でも1番しんどいのは

は理科室の実験! 註ガスバーナーを使用するため、炎を揺るがさないよう窓は開けずに行います。換気扇は回りますが、エアコンが付いていない理科室は、ガスバーナーの暑さも加わり恐ろしいことに。生徒の集中力を切らさず、自分の汗とも戦います。ぜひ、理科室にエアコンを!!

〇梅雨入りした途端、1週間続けてのどしゃぶり。学級花壇では、各学年のアサガオやトマト、ひまわり、ホウセンカ、ツルレイシ等の育ちもいまいち伸びず、日光を待ち焦がれているようです。6年生のじやがいもは梅雨入り前日に掘り上げ、大収穫を喜び合いました。植え付けから収穫までを楽しめる野菜作りは、力強い教材です。

メールはこちら